

7. 特用作物（参考資料）

防除指針Ⅱ

（１）さとうきび

さとうきび

農 薬 名	特 性	対象雑草名	使 用 上 の 注 意 事 項
センコル水和剤 メトリブジン 50.0%	非ホルモン型吸収移行型の除草剤であり、土壌処理では発芽後に根部から、茎葉処理では茎葉部から吸収され光合成を阻害し、殺草する。	一年生雑草、ムラサキカタバミ	1. 春植えまたは夏植えを対象とする。 2. 多年生のムラサキカタバミに対しては地上部は枯死するが地下部は残りやすいので所定薬量の範囲内で多目の薬量を使用する。 3. 土壌の乾燥が続く場合には土壌散布は効果が低下するので、雑草の発生後に茎葉散布する。 4. 有機含量の低い土壌や砂質土壌では薬害を生ずる恐れがあるので使用しない。 5. 激しい降雨の予想される場合は使用を避ける。

（２）そば

そば

農 薬 名	特 性	対象雑草名	使 用 上 の 注 意 事 項
ナブ乳剤 セトキシジム 20.0%	非ホルモン型吸収移行型の選択性除草剤であり、イネ科雑草の茎葉部及び根部から吸収され生長点に移行し、分裂細胞組織の伸長を抑制し殺草する。	一年生イネ科雑草（スズメノカラビラを除く）	1. イネ科作物にかからないようにする。 2. 冬の低温時や出穂期以降など、雑草の生育が停止しているときは効果が劣る。 3. 広葉雑草およびカヤツリグサ科には効果が期待できないので、イネ科雑草優占圃場で使用する。

8. 飼料作物（参考資料）

（１）ソルガム

ソルガム

農 薬 名	特 性	対象雑草名	使 用 上 の 注 意 事 項
ロロックス リニュロン 50.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤であり、根部及び幼芽部から吸収されて茎葉に移行し光合成を阻害し殺草する。	一年生雑草	1. 砂土では使用しない。 2. 砂質で水はけのよい畑では薬量をひかえめにする。 3. ヤエムグラ、スベリヒユ、ノミノフスマ、ハコベには高い効果がある。
ゲザブリムフロアブル アトラジン 45.0%	非ホルモン型移行性の除草剤であり、幼芽、幼根から吸収され、タンパク質の生合成を阻害し殺草する。	一年生広葉雑草	1. ツユクサに効果が高い。 2. 深根性の雑草や既発生の大きくなった雑草には、効果が劣る。 3. 雑草の発芽直前から発芽ぞろい期が最も有効である。 4. 雨の多い時期、場所での使用は避ける。 5. 播種覆土は丁寧に行い、覆土深は3 cm程度にする。 6. イネ科雑草には効果が不十分な場合があるので、それらの優占する圃場での使用は避ける。
ゴーゴーサン乳剤 ペンディメタリン 30.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤であり、根部または幼芽部から吸収され、生長点の細胞分裂を阻害し殺草する。	一年生雑草	1. イネ科及び広葉の一年生雑草には効果があるが、キク科雑草とツユクサには効果が劣る。 2. 土壌が過乾、過湿のときは使用を避ける。 3. 有機質の少ない圃場では薬量を少な目にする。 4. 覆土深は3 cm以上とし、散播では使用しない。 5. 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、希釈水量を多めにするか又は降雨後に散布する。 6. 激しい降雨が予想される時には使用を避ける。
ゴーゴーサン細粒剤F ペンディメタリン 2.0%		一年生雑草	

（２）飼料用とうもろこし

飼料用とうもろこし

農 薬 名	特 性	対象雑草名	使 用 上 の 注 意 事 項
ロロックス リニュロン 50.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤であり、根部及び幼芽部から吸収されて茎葉に移行し光合成を阻害し殺草する。	一年生雑草	1. 砂土では使用しない。 2. 砂質で水はけのよい畑では薬量をひかえめにする。 3. ヤエムグラ、スベリヒユ、ノミノフスマ、ハコベには高い効果がある。 4. 激しい降雨の予想される場合は使用を避ける。
ゲザブリムフロアブル アトラジン 45.0%	非ホルモン型の移行性除草剤であり、主として根部より吸収され、発生前の葉緑体に達して、光合成を阻害し、炭水化物の生成を妨げることにより殺草する。	一年生雑草	1. ツユクサに効果が高い。 2. 深根性の雑草や既発生の大きくなった雑草には、効果が劣る。 3. 雑草の発芽直前から発芽ぞろい期が最も有効である。 4. 雨の多い時期、場所での使用は避ける。 5. 播種覆土は丁寧に行い、覆土深は3 cm程度にする。 6. イネ科雑草には効果が不十分な場合があるので、それらの優占する圃場での使用は避ける。
ゲザノングールド アトラジン 27.8% S-メトラクロール 26.4%	幅広い一年生雑草に高い効果を発揮。土壌処理でも生育期処理でも使用可能。イチビ、アレチウリなどの問題雑草にも有効。	一年生雑草	1. イチビの防除を行う場合には、所定量の範囲内で多めの薬量を散布。 2. 薬害を生じるおそれがあるので砕土、整地及び覆土はていねいに行う。 3. 土壌が極端に乾燥している場合には除草効果が劣ることがあるので、所定量の範囲内で散布水量を多めにして、ていねいに散布。 4. 有機物の多い土壌や粘土質の土壌では所定範囲内で多めの薬量を散布。 5. 極端な過湿土壌及び砂質土壌で使用する場合には生育を抑えることがあるので少なめの薬量を散布。 6. 砂土では使用しない。 7. マルチ栽培に使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、注意。 8. は種前に使用する場合、所定量の範囲内で少なめの薬量を散布。 9. は種後（発芽前）に使用する場合、土壌の高温または過湿が予想される場合は使用を避ける。
ゴーゴーサン乳剤 ペンディメタリン 30.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤であり、根部または幼芽部から吸収され、生長点の細胞分裂を阻害し殺草する。	一年生雑草	1. イネ科及び広葉の一年生雑草には効果があるが、キク科雑草とツユクサには効果が劣る。 2. 土壌が過乾、過湿のときは使用を避ける。 3. 有機質の少ない圃場では薬量を少な目にする。 4. 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、希釈水量を多めにするかまたは降雨後に散布する。 5. 激しい降雨が予想される時には使用を避ける。
ゴーゴーサン細粒剤F ペンディメタリン 2.0%		一年生雑草	

農 薬 名	特 性	対象雑草名	使 用 上 の 注 意 事 項
アルファード液剤 トブラメゾン 3.6%	一年生イネ科雑草・一年生広葉雑草の幅広い草種に効果あり。有効成分「トブラメゾン」が作用し、白化させて枯らす。イヌホオズキ・シロザ・イチビ・オオブタクサなどの問題雑草に卓効を示す。各品種に影響が少なく高い選択性がある。	一年生雑草	1. 食用とうもろこしには使用しない。 2. 周辺作物に対して薬害を生じるおそれがあるので、飛散しないよう十分に注意。 3. 雑草茎葉にかかるよう、まきむらのないよう均一に散布。 4. 雑草生育期に有効であるが、雑草が大きくなりすぎると効果が劣ることがあるので、時期を失しないよう均一に散布。 5. 散布直後の降雨は効果を低下させるので、天候に注意。
ラッソー乳剤 アラクロール 43.0%	非ホルモン型移行性の除草剤であり、幼芽、幼根から吸収され、タンパク質の生合成を阻害し殺草する。	一年生雑草	1. 雑草の発芽前に使用する。 2. イネ科雑草に効果が高く、タデ、アカザ等広葉雑草には効果が劣る。 3. 薬量を厳守し、処理後大雨が予想される場合は使用を避ける。 4. 有機物を多く含む土壌や粘土質では、効果が劣る場合があるので、所定範囲の高薬量で使用する事が望ましい。
ボクサー ブロスルホカルブ 78.4%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。SU剤等抵抗性スズメノテッポウにも効果を示す。	一年生雑草	1. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣ることがあるので、希釈水量を多くするか、降雨後等適度な湿り気を持たせて散布する。 2. 排水不良の畑では薬害が生ずるおそれがあるため使用しない。 3. 処理後に大量の降雨が予想される場合は使用しない。 4. 砂土での使用はさける。 5. 砕土、整地をていねいに行い、種子が露出しないように覆土（深度2 cm以上）する。 6. SU剤等抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬量を所定範囲内で多めにする。 7. 堆肥を多く施用した圃場では、低薬量でイネ科雑草に効果が劣る場合があるので、広葉雑草優占圃場で使用する。